

■欧州：2011年の新規導入実績で欧州地域が世界の75%を占める

欧州太陽光発電産業協会（EPIA）は2012年1月24日、2011年における世界の太陽光発電設備の新規導入量が約2,770万kWとなり、欧州地域は約75%を占める約2,100万kWだったことを発表した。また、国別の内訳では、イタリアが900万kW（33%）、ドイツが750万kW（27%）となり、両国で世界の60%を占めた。以下、中国200万kW（7%）、米国160万kW（6%）、フランス150万kW（5%）、日本110万kW（4%）などの順となる。2011年末までの累積設備導入量でもドイツが2,470万kW、イタリアが1,250万kWとなり、全体の55%を占めている。ただし、EPIAは欧州各国で政府の支援策が削減される方向にあり、今後の新規導入量が減少する可能性を危惧している。